

ねん がつ にち
2022年4月24日

ふっかつせつだい しゅじつ
復活節第2主日

きくち いさおだい しきょう
菊地 功大司教 メッセージ

ふっかつせつだい に しゅじつ きょうこう に せい かみ しゅじつ さだ
復活節第2主日は、教皇ヨハネ・パウロ二世によって、「神のいつくしみの主日」と定
められています。「じんるい しんらい も む かぎ へいわ え
ないであろう」という聖ファウステイナが受けた主イエスのいつくしみのメッセージに基
づいて、神のいつくしみに信頼し、その愛に身をゆだね、わたしたち自身が受けたいつ
くしみと愛を、今度は隣人に分かちあうことを黙想する日であります。

ねん はつびょう かいちよく ぶか かみ きょうこう してき
1980年に発表された回勅「いつくしみ深い神」で、教皇はこう指摘されています。

あい みずか あらわ ようたい りょういき せいしょ ことば よ
「愛が自らを表す様態とか領域とが、聖書の言葉では「あわれみ・いつくしみ」と呼
ばれています」(いつくしみ深い神 3)

うえ あい しん しん あい
その上で、「この愛を信じるとは、いつくしみを信じることです。いつくしみは愛になく
てはならない広がりの中であって、いわば愛の別名です」(いつくしみ深い神 7)と言われ
ます。

ぶか ひとびと さいわ ひと う さんじょう すいくん
「あわれみ深い人々は幸いである、その人たちはあわれみを受ける」という山上の垂訓
の言葉を引用しながら、「人間は神のいつくしみを受け取り経験するだけでなく、他の人
に向かって、『いつくしみをもつ』ように命じられている」と指摘される教皇は、人類
の連帯を強調されました。いつくしみに基づいた行動は、神からの一方通行ではなく、
それを受けるわたしたちの霊的変革が求められるごとく、相互に作用するものだとも語
ります。教皇は「人間的なものに対する深い尊敬の念をもって、相互の兄弟性の精神
を持って、人と人との間の相互関係を形成していくために、いつくしみは不可欠の要素
となる」と指摘しています。正義には愛が不可欠であることを、愛といつくしみが介在
して始めて相互の連帯が生まれることを強調するヨハネ・パウロ二世は、教会が「多
くの要素を持った人間関係、社会関係の中に、正義だけでなく、福音の救世的メッセ
ージを構成している『いつくしみ深い愛』を持ち込む」ために働くよう求められました。
(いつくしみ深い神 14)

きょうこう とうきょう ことば おも お
教皇フランシスコの、東京ドームでの言葉を思い起こします。

「傷をいやし、和解とゆるしの道をつねに差し出す準備のある、野戦病院となること
です。キリスト者にとって、個々の人や状況を判断する唯一有効な基準は、神がご自分の
すべての子どもたちに示しておられる、いつくしみという基準です」

ふっかつ しゅ しゅう ほじ にち ゆうがた じん おそ かく かぎ で し
復活された主は、週の初めの日の夕方、ユダヤ人を恐れて隠れ鍵をかけていた弟子たち
のもとへおいでになります。主は復活によって、死をもたらず悪に、神の愛といつくし
みが打ち勝つことを示され、その上で、「平和があるように」、すなわち神の支配が弟子
たちと常にあることを明確にして恐れを取り除きます。そして弟子たちを罪のゆるしの
ために派遣されました。罪のゆるし、すなわちイエスご自身がその公生活の中でしばし
ば行われたように、共同体の絆へと回復させるために、神のいつくしみによって包み込
む業を行うことでもあります。

ふくいん しる しゅ かんけい かみ かんぜん さんざい つね
福音に記されたトマスと主との関係は、神のいつくしみは完全な存在であり常にわたし
たちに向けられているのに、それを拒むのは人間の側の不信仰であることを浮き彫りに
します。信じようとしないトマスを、それでもイエスは愛といつくしみで包み込もうと
なさいます。放蕩息子の父親に通じる心です。この世界には、神の愛といつくしみが満
ちあふれています。互いに連帯し、支え合い、賜物であるいのちを尊重して生きるよう
にとわたしたちを招く、神の愛といつくしみに満ちあふれています。それを拒絶するの
は、わたしたちの側の不信であり、怠慢であり、悪意であります。